

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2023年4月～6月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から約 15 社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

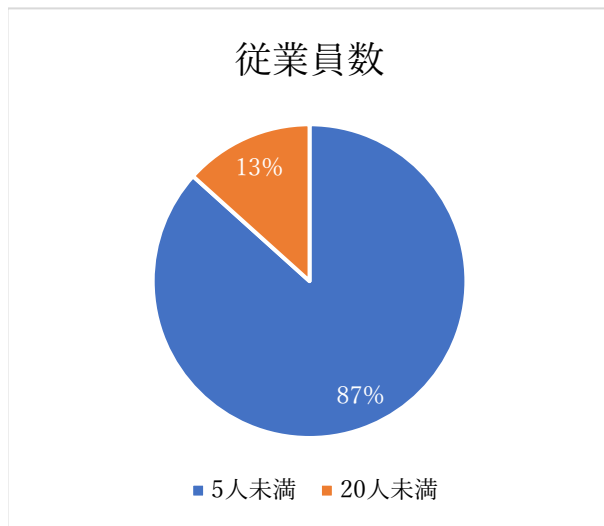
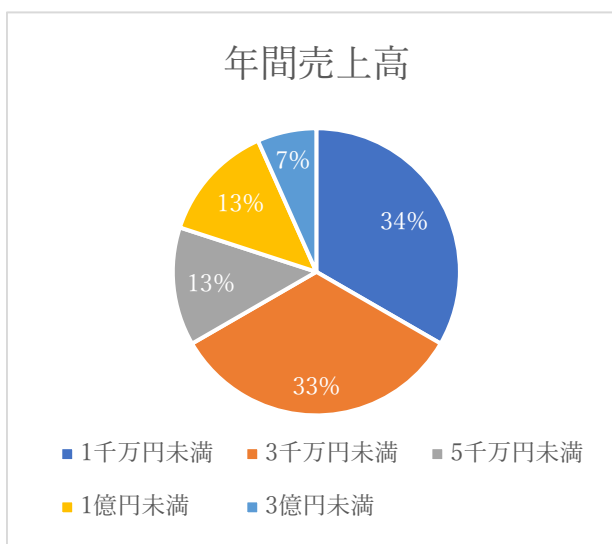
3. 調査事業者

- | | |
|---------------|-----|
| ① 製造業 | 3 社 |
| ② 建設業 | 2 社 |
| ③ 小売業（卸売業を含む） | 4 社 |
| ④ サービス業 | 6 社 |

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 現在認識している経営課題を調査。
- ③ 近年の原油・原材料価格高騰の影響を調査。

5. 事業者の規模



I. DI 分析

表1：2023年4月～6月のDI

	全体	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-6.7%	0.0%	100.0%	-75.0%	0.0%
販売単価	-6.7%	0.0%	50.0%	-75.0%	16.7%
経常利益	-26.7%	-33.3%	0.0%	-75.0%	0.0%
資金繰り	-13.3%	0.0%	0.0%	-50.0%	0.0%
人材確保	-13.3%	33.3%	-50.0%	-25.0%	-16.7%
景況感	-40.0%	-33.3%	-50.0%	-50.0%	-33.3%

- 2023年4月～6月期は、業種により明暗が大きく分かれる結果になった。
- 小売業は、相変わらず暗いトンネルを抜け出せずにいる。一方で、サービス業は不安材料を抱えながらも堅調に推移している。
- 建設業が前回（2023年1月～3月期）から一転して業績が大幅に改善している様子が窺える。販売単価が改善し、売上高の伸張につながっていると推測される。一方で、経常利益が現状維持であり、物価高騰の影響で、売上が伸びても利益につながらない様子も窺える。
- 製造業については、売上高の伸張が止まり、その結果経常利益を悪化させている様子が窺え、物価高騰の影響が徐々に顕在化してきたと推測できる。

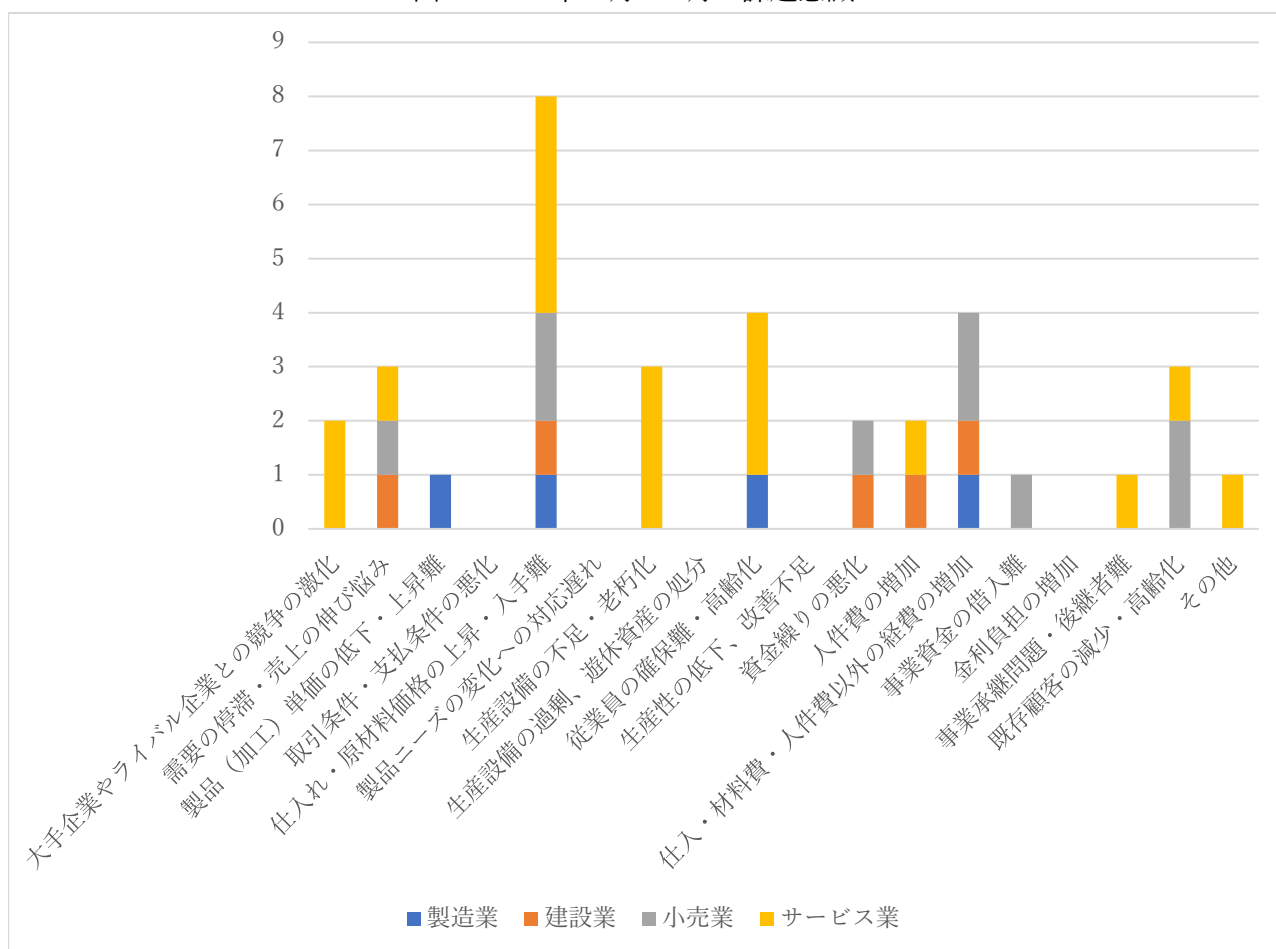
DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 課題意識調査

図1 2023年4月～6月の課題意識



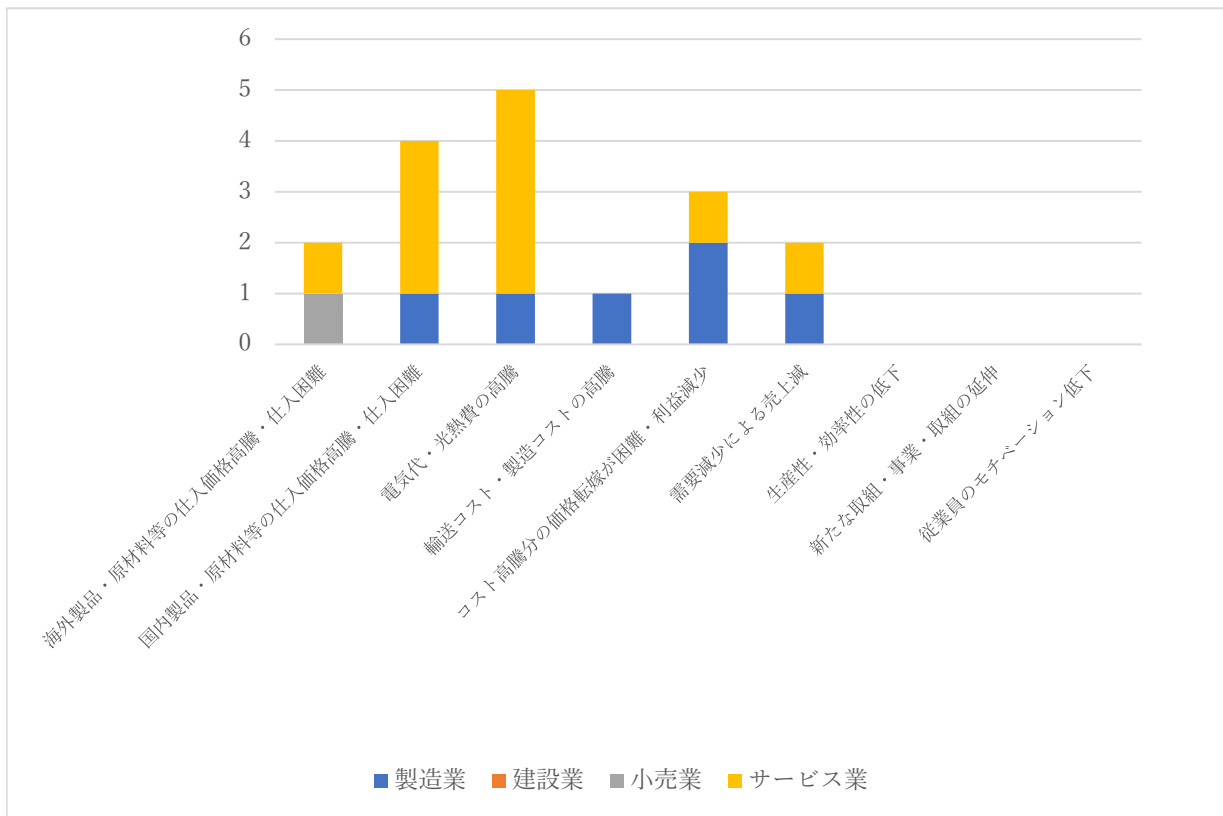
- 課題意識は、前回とほぼ変わっていない。
- やはり、サービス業を中心に、仕入れ・原材料価格の上昇・入手難、人件費や経費の増加に手を焼いている様子が窺える。
- また、サービス業における人員と設備の不足感も解消されていない。

III. 原油・原材料価格高騰の経営への影響

表2 原油・原材料高騰による経営悪化状況の推移

	2022年			2023年	
	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月
製造業	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	66.7%
建設業	50.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
小売業	75.0%	75.0%	50.0%	50.0%	50.0%
サービス業	50.0%	33.3%	33.3%	66.7%	66.7%

図2 2023年4月～6月の原油・原材料価格高騰の具体的な影響



- 前回同様に、小売業以上に、サービス業や製造業において危機感を抱いている様子が窺える。
- 特に、製造業では危機感を募らせている。コスト高騰分の価格転嫁ができず、DI値分析でも推測されたように、そのことが経常利益を悪化させている主因になっていると分析できる。

以上